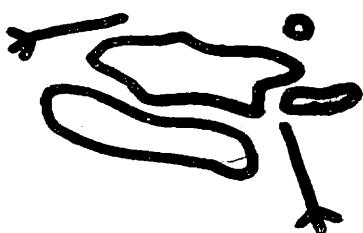


2002年度

積雪期山行報告書

& 1年間の総括

山岳魚.



0.0.

信州大学
山岳会

SAC

もくじ

- ・有明山(日帰リ"かみは")ま(ま)山行 ... P2
- ・錫杖岳左(さ)カントルート ... P3
- ・穂高 11°4ンコ ... P4 ~ P5
- ・唐沢岳幕岩 5字スルート ... P6
- ・八ヶ岳とうと"人を樂(うき)こ!" ... P7
- ・穂高岳縦走 ... P8 ~ P11
- ・美ヶ原 ... P12
- ・白峰三山(大唐松尾根) ... P13 ~ P14
- ・錫杖岳・北沢大滝~本峰正面ハヤセ" ... P15
- ・冬の屏風ヶ上高地 ... P16 ~ P17
- ・屏風ヶ大ジュー・ドルルート ... P18
- ・錫杖万歳(3ケンゼルルート) ... P19
- ・男三巴焼岳スキーツアー ... P20 ~ 21
- ・間ノ岳~北岳(34法小屋反折) ... P22 ~ 23
- ・特集「今年行くアイス」 ... P24
- ・總括・抱負 ... P25 ~ 29
- ・編集後記 ... P30

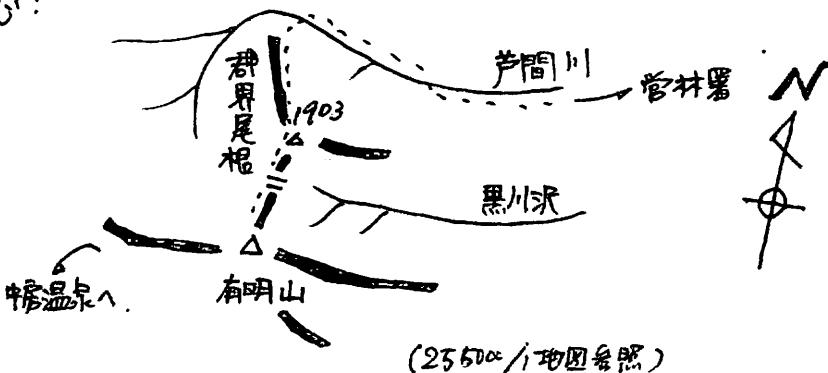
有明山(日帰りで"がんばりまじう)山行

山域: 有明山・郡界尾根

メンバー: 山佐藤祐樹(3)、片寄哲生(2)

三森武亮(1)、横山輝生(5)

概況:



期間: 11月9日のみ

コースタイム: 6:30 宮林署出発

13:00 有明山山頂100m下

7:30 郡界尾根取り付け

16:00 郡界尾根取り付け

11:00 1903mピーク

17:00 宮林署着

有明山(別称:信濃富士)は我々にとって最も身近な山の一つで"ありながら"登ったという話を聞かない、ある意味"忘れられた山"であったようだ。しかし、有明山をヒモと実に興味深い。昔からの信仰の対象であり、この山は現在、黒川沢から入る夏道(夏参道)、中房側川から入る道(裏参道)と呼ばれて、松川村の人たちにとっては"富士山"の一つであるらしい。有明山はアーバインという面でも興味深い。夏道は各沢とも登攀要素のある沢登りが楽しめ、山頂直下には大きな壁があり立っている。現在これらの壁にはアプローチ難易度もあるのか3本程度しかなく、冬には各沢共に凍り、アイスクライミングも楽しめます。"こんなに近くで登らなければ理由はない"と思いつつ、今回は有明山の概況と芦間川の様相を見学ため登ることにした。しかし、秋山よりもはるかにこの日時(暮月)、有明山はなぜか厳冬期と思わせる様相であった。当初予定の概況でつかひどい3の話をのみく、1つの間にか"登頂直"を目指していった。腰から脚の深い冷え、せんじ然々としてしまい、1本も床といふところでは山頂直下100mほど"の所まで"上がったのが、ミソナ-こと三森君の様態悪化の顔を見ていかたぬ、下山することとした。日帰りで"がんばりまじう"。(未時間もせまることもあり)

郡界尾根は冬期有明山山頂からの下山路としてもつかえると思う(五右衛門山頂直下100mほど、いくわからぬ)下山は懸垂1回のみ、テント場は時折、5~6人用サート張れるほどのスペースがある。来年、片寄さんと三森君が"ハイン"をしてくれるらしい。もちろん日帰りで....

12/7・8 錫杖岳 佐藤祐樹(3) 横山勝丘(5) 花谷泰広(学士山岳会)

12/7 佐藤の初冬壁ということで、入門のスタンダードとして名高い(?)錫杖に出かけた。横山・花谷にとつても今シーズン初めての冬壁であり、手始めに錫杖に行くのはもはや定番になってきた。ルートは左方カンテを登り、東尾根経由で山頂まで行くというもの。今回楽しみだったのは東尾根。難しくはないだろうが、山頂まで抜ける合理的で美しいラインであり、そぞられる。

アプローチは雪がほとんどなく、冬らしくない。壁も去年より真っ黒。一抹の不安がよぎるもの、まあ行ってみるべ、ということで登攀開始。最初のガリーはノーロープで駆け上がる。急になってきたところでロープをつける。佐藤初冬壁にして初リード。夏のIV+は難なくフリーで越え、下部核心も「怖え～」と言いながらあっさり抜ける。次のチムニーはザックに苦労しながらもオールフリー。その上のフェースもあぶみでさくっと越え、一気に大テラスまで。これでお役御免。見ていて全く不安なし。上部核心からの2ピッチは花谷さんがリードを務めるが、あっさり終了。5時間半。

上部は雪が少ないながらもラッセルがあり、鳥帽子岩のトラバースはコンテで進む。鳥帽子岩西肩の大洞穴でビバーク、もとい、幕営。いと快適也。ここまでテントとシュラフを上げた甲斐あった。夕方から雪が強くなる。

12/8 朝起きてみると雪が 10 cmばかり積もっている。ここから先はコンテでグラスリンネの入口までトラバース。あらら、素敵な氷柱がお出迎え。なかなか圧巻です。ここから先はたまにスタカットに変え、順調に進み、午前中のうちに山頂着。ちょうど雪もやみ、ガスも晴れてきた。やっぱり山頂に立つというのはいいね～。山頂からは北尾根を 2100m コルまで下り、そこから一気にクリヤ谷へ下降。途中、どでかい氷柱がわんさかあり、3人興奮状態。錫杖は大きな可能性を持っている。雪の積もったクリヤ谷を下り、温泉に浸かって帰松。あ～楽しかった。

前にも書いたが、錫杖は初めての冬壁体験にはもってこいの岩場である。アプローチが近くて、雪もそれなりに多いし、スケールもまあまあ。さらに、岩、氷、ルンゼ登攀、様々なフィールドを共してくれる。準本チャンみたいな雰囲気だが、技術的にはそれなりのものを必要とされるし、何より山がかっこいいからね。これからは山頂まで行くことをお勧めします。素敵なお山頂です。

あれだけのアイゼン岩トレをしているのだから、夏に経験を積んだ人は冬壁に行ってほしい。普通にやっていれば3年生で充分こなせると思う。好み好まざるは別として、一つの体験としてやってみるのもいいと思う。それを実践できるのが錫杖だと思う。

今回は雪が少なく、あっけなく終わってしまったが、3人和気あいあいと楽しく登れてよかったです。めでたしめでたし。佐藤、花谷さん、また行きましょう。

横山記

おしまい

12/26～30 穂高(敗退)
横山勝丘(5) 岸本俊朗(学士山岳会)

さて、年末年始はどこに行こうかやあ。そんなことを考えていて、ふと思いついた。そういえば、穂高って近いくせにあまり行ったことねえなあ。と言うわけで、穂高の継続登攀を計画した。ルートは、屏風～北尾根～奥穂～滝谷～槍ヶ岳～西稜～横尾尾根下山。実働 8、予備 3。

パートナーは岸本さん。直前はいつになく細かいところまで準備をした。登攀が入るので、極力軽量化したいからだ。山をやってて初めてカロリー計算までしてしまった。

12/26 吹雪 明神 835～1115 横尾 1125～1400 T4 尾根取付 1415～T4 1930

明神までボンドさんに送ってもらう。ありがたい。横尾までの道は膝下のラッセル。横尾からは雪がぐんと増え、T4 尾根取付直下では胸まで。雪崩が怖い。T4 尾根取付に早く着いたので楽勝～♪と思っていたら大間違い。T4 尾根は最低。シーズン初めだったのでピンが全部埋まっていて、やばかった。吹雪も強い。いつの間にやら日は暮れ、わけのわからん雪壁をずんずん進み、ビレー点なしのチムニーを越え、上の雪壁でピッケルを埋めビレー。岸本さんが登ってきて、「あとどのくらい?」と聞くので、「あと 20m くらいでしょうかね?」。岸本さんが上を見て一言「何言ってんの、お前? 目の前壁じゃねーか。」「へ?」自分にはどう見てもあと 20m くらいあるようにしか見えない。暗い中では距離感覚もおかしくなる。実際は、自分の立っている場所が T4 だった。急いでテントを張る。そうそう、軽量化の割に今回はテント。快適に過ごしたいと思ったからだ。ところがどっこい、俺のヤッケには大量の雪が付着。とろうとしても無理。時間もないし、テントに入る。ありやりや、テントの中は湿度 100%。ぜんぜん快適じゃねー。さっさと寝る。

12/27 暴風雪 1PFIX したあと沈殿

まさか屏風で沈殿するとは思わなかった。蒼稜 1P 目は岸本さんリード。だが、ビレー点からリードする岸本さんは見えない。何とか 1P 登り終え、ユマーリングして合流。2P 目に行こうとするが、ダメダメ。やべーよ! というわけであえなく下降。さっさとテントを張り、引き籠もる。

12/28 快晴～雪 T4 620～1630 終了点上樹林帯

この日で壁を抜け、北尾根 8 峰辺りまで行きたかったんだが…。ルートは所々に出てくるフリーと人工の 1 ポイントが悪いだけで、最初から最後まで至ってつまらんアブミのかけかえ。東壁ルンゼに入つてからは冰雪壁をノーピンで 2 ピッチ。ここが一番面白かった。壁を抜け樹林帯に入る頃には既に 16 時半。畜生。疲れたのでテントを張り、寝る。

12/29 雪～快晴 T.S～北尾根 8 峰～慶応尾根～徳沢

ラッセル。なかなか深くて苦労する。8 峰の下りでアクシデント。岸本さんが落とし穴にはまり、膝を強打。相当痛そうで、ペースダウン。8 峰の山頂で下山決定。慶応尾根では 30 人ばかりの登山者とすれ違う。そうか、入山ラッシュか。怪しまれる二人。

12/30 快晴 徳沢～中の湯

つたく、なんなんだ。寒いったらありやしない。シュラフ乾かしたはずなのに。今日も快晴。のんびりと下山。途中吉田さんと会う。結局ボンドさんとは会えなかった。野川に迎えに来てもらい帰松。

結果は惨敗。まあ、これが実力なのだと素直に受け止めよう。パチンコは何か一つでも欠けては成功しないのだと思う。壁を登るのに関しては、大したクライミング技術はいらない。それよりも、スピードや生活技術、つなぎの縦走でのスピーディな行動、吹雪でも動ける体力と精神力、そして運、といったものが必要なのだと思う。暴風雪の中屏風を登れず、次の日に屏風を越えて北尾根まで入れなかつた時点で明らかに敗退だね、こりや。まあ、所詮実力はこんなもんか。まして、あれだけ良い天気が続いて、人も多く入っていたというのに。でもこれに懲りずにまた行ってみようと思う。それにしてもやっぱりラダーの人工はつまらない。つまらなさすぎ。もし来年以降パチンコをやるなら面白いルートを選ぼう。滝谷と槍西稜は行きたかった。特に槍西稜。来年は、滝谷出合～槍西稜～北鎌下降、とか面白いかもね。岸本さん、来年もしよかつたら行きませんか？

結局、大学に入って初めて正月を実家で過ごしました。チャンチャン♪



作：小尾

「蛤いがい、入

2/14~16 唐沢岳幕岩 S字ルート

横山勝丘(5) 田中基樹(松本 CMC)

2/14 ヴァレンタインデイだというのに、むさい男二人、大町を越え、葛温泉まで車を走らせる。相変わらずだるい林道歩き、途中、大ハングにかかる氷柱に歓声を上げながら進み、高瀬ダム下から唐沢に入る。ラッセルはほとんどなく、快調に進み、金時の滝を越えると、目の前に幕岩がドーン、と現れる。あらら、S字真っ白じゃないの〜♪ 本当は西壁ルンゼに行くつもりだったが、この光景を見て S 字に行かない奴は馬鹿だ、ということで、あっさり決定。この日は大町の宿まで、着いて偵察もせず、速攻飯を喰らい、寝る。

2/15 3時起床。5時発。暗い中 B 沢を詰める。ありや～取付わかんね～。ということで少し明るくなつてから、変な雪壁を登り、ひたすら右上。7時、大テラスの取付。1P 目、ひたすらトラバース。ラン...なし。氷の張ったルンゼまで。2P 目、氷を登る快適なピッチ。3P 目、目の前のベルグラは登れず、少し左から巻き、氷に戻り中央ルンゼの氷柱下まで。快適。4P 目、左に軌道修正。スラブで 1 ポイント A0 してしまった。後悔。5P 目、直上から右上し、右の氷の張ったルンゼまで。ビレー点最悪。6P 目、凹角。田中さんのバイルぶつ壊れる。7P 目、氷をつないで右上し、最後のハング下まで。田中さんはユマール。8P 目、目の前の氷を越え、ベルグラを繋ぎ、最後雪壁に飛び出し、終了。16 時。合計 9 時間。急いで右稜の頭までトラバース。あとは懸垂。ここでポイント。ドーム壁の下からは大凹角に向かって降りたほうが賢明。回数も少ないし、すっきりしていて、引っ掛かりの心配もなし。大町の宿 20 時着。簡単に飯を喰らい、寝る。

2/16 朝から大雪。田中さんのバイルもぶつ壊れたことだし、予定していた西壁ルンゼをやめ、下山。高瀬ダムまで 1 時間、そこから葛温泉まで 1 時間。瞬殺。

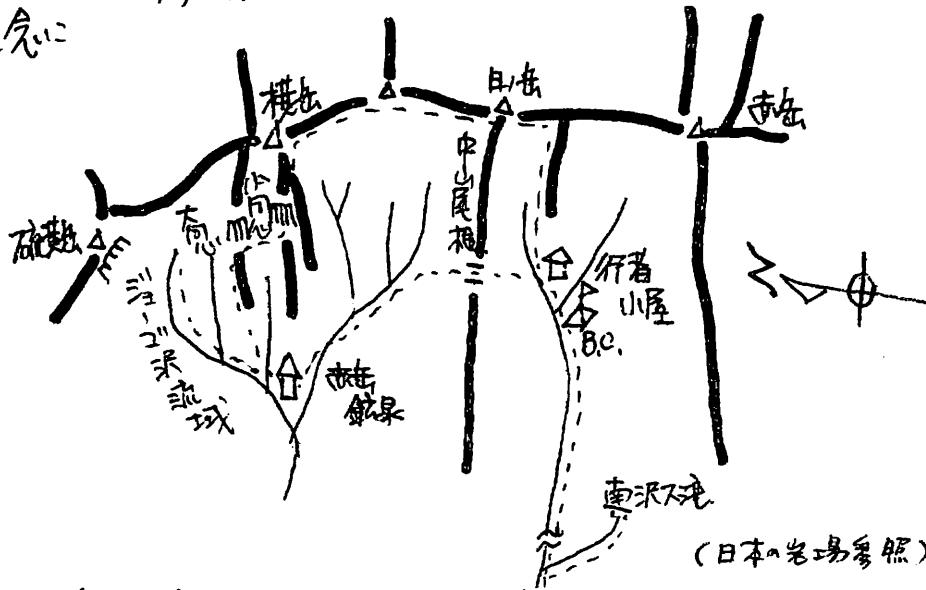
S 字はいいルートです。冬壁の中でも、オールフリーに近い状態で登れるルートはそんなにあるものではないです。今回詳しい情報は書きませんでしたが、冬壁、特に、S 字のようにスラブに乗ったベルグラや氷を繋いでいくルートでは、「ココ！」といったラインがあるわけではなく、行ける所を行く、というのが正しいでしょう。行く人はぜひオールフリーを狙ってください。冬の幕岩はアプローチよし、ベースよし、壁よし、言うことなし。さて次はどこに行こうかな。

八十岳とうどんを楽しもう!!

山域: 八十岳西面

コース = L. 佐藤祐木町(3) 三森 武志(1)
井寄哲生(2)

概念:



(日本の岩場参照)

期間: 2/15 ~ 2/20 (内、三森は 2/15 ~ 2/18まで)

この山行の成果とうどんの種類。

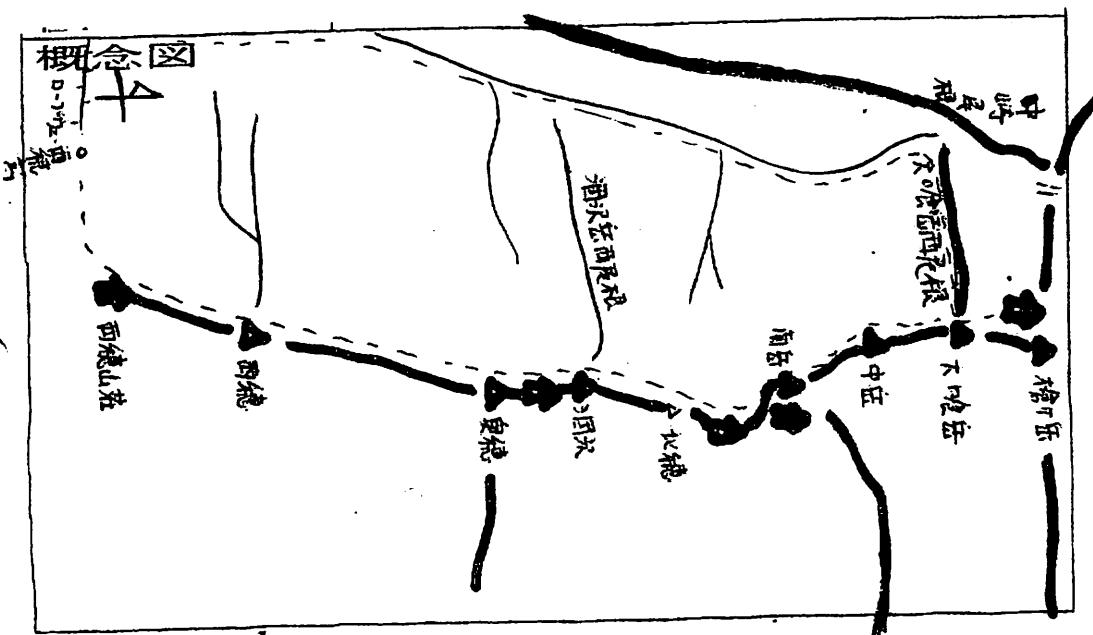
	1日目 入山	2日目 ナガラの滝 2ヶの滝 三沢大滝	3日目 小向山 ルート	4日目 南沢大滙	5日目 中山尾根	6日目 下山
①	うどん	うどん	うどん	うどん	うどん	うどん
②	うどん	うどん	うどん	うどん	うどん	うどん

八十岳閣には持筆可べきことの特徴!!。また、トマトソース、
カツオの煮込み、カツ丼、カツカレ等、様々な料理が楽しめます。

うどんは!!!、お腹へ炭水化物で満たされ、翌日のつかれが残らぬ!!。でもさすがに毎日はちょっと脳タリんでしょ。

穂高岳縦走 (3月2日~6日)

メンバー 佐藤祐樹(3) 片寄哲生(2)



3/2(晴れ) 新穂高ロープウェー→西穂山荘(3:00)

この日は西穂山荘までということで、松本をのんびり出発した。

車はサンプリング（研究用の雪の回収）部隊のジャンボさん、三森の車に便乗させてもらう。林太郎さんの追いコンに駆けつけた井上を空港で見送っていよいよ離松。新穂高ではOBの長谷川さんにロープウェーに乗せていただいた。感謝。

西穂口から先はばっちりトレースが付いており、すれ違う観光客と道を譲り合いながら歩いた。早々にサンプリングの二人とも別れることとなり、山荘までの道のりをだらだらと進んだ。

西穂山荘は冬季テント場代をとらない良心的な山荘。記帳だけしに山荘に入るとビールが売られており、ついつい買ってしまった。明日以降、当分お酒とは縁がない、まあいいだろ。明日からはハードな道のり。食って、出して早々に就寝。

3/3(曇りのち吹雪) 西穂山荘(6:10)→西穂高岳(7:50)→ジャンダルム(11:30)→奥穂高岳(13:30)→山荘真上のルンゼ(15:00)

早めの出発を期していたものの、昨夜来のMSRの不調によりエッセンに余計な時間

がかかるてしまい、出発の頃にはどうに明るくなっていた。

遅れをとり戻すべく西穂までのピッチは自ずと早足になる。独標の辺りすでに雲が出始めたが、山荘まで天候が持つことを祈るしかない。特別いやらしい個所も見当たらず(テン場にもってこいに見える場所がたくさんあった)、快調に進んで行き天狗のコルに到着。人影もないのに標識に固定されてあるザックを発見し、遭難か?と二人してザックの中身を確認するが、ここでは連絡のしようもない上、天候も悪化し始めている。山荘に着いてからと割り切りその場を離れた。

次なる天狗の頭までの登りには心底まいった。いつまで経っても平地が現れないあの長さには絶句の一言だった。ようやくジャンダルムの登場。トラバースするルートは見るからに怖そうなので、無難に懸垂することに。残置支点はしっかりしたものが残っている。この頃より既に吹雪が強まっておりルーファイが困難になる。数m先すら確認できない中、佐藤さんが手探りでトレースを切り拓いていった。続いてロバの耳の垂。1P 懸垂すると、まだ新しそうな FIX ロープが残置されていたので、ありがたく使わせてもらう。無雪期には慎重を要する馬の背も雪が付いているところはなく通過できる。

奥穂の山頂に何の感慨もなく到着し、早々に小屋を目指して下山を開始する。丁度向かい風でブリザードが容赦なく叩きつけてくるため、1秒とて視線を維持し続けることができない。かといって背を向けているといつの間にやら押し流される始末。顔中を氷で覆われながら、マーカー伝いに山荘を探した。始めマチガイ尾根と思われる方に進みかけるが、右側に一瞬視界が開けそちらに進路を修正する。それからもマーカーを頼りに進むが続きを見失ってしまい、登り降りを繰り返す。山荘直上のワイヤーを発見するところまで行きながら、すぐそばのマーカーに気づけなかった。付近のレンゼに雪洞を掘ってテン場とすることに決め、吹雪の中雪堀りを開始。L字型の雪洞にしたのだが、後になってみると失敗だった。ものの30分で雪に埋もれていくため、除雪を余儀なくされた。あのような場所でビバークがやむを得ない場合には、たとえ疲れていても、傾穴式に近いものを作るべきだろう。

ヤッケも雪まみれとなっていたが、MSRで空炊きを少々するのみで水分、食料とも程々にしか取らなかった。後から冷静に考えるととんでもない間違いだったのであるが、小屋に着いてからゆるりとしたい、という考えになっていた。

寝る前の除雪を済ませてこの日を終えた。

3/4(吹雪) T 穂高山荘上ルンゼ T.S(10:00)→穂高山荘(10:25)

目を覚ましてみるとテントはかなり雪に埋められていた。しかしながら夜中に除雪の必要がなかったところを見ると吹雪も若干勢いを弱めたのだろうか。とにかく先に一方が起きないと身動きがとれないので、片寄が先に起きて除雪にテントを出た。外は相変わらずの天候ではあるものの、視界は昨日と比べたら全然ましだった。すぐ真下に丸印

のマーカーが見えた。なぜ昨日気づけなかったのか、と悔やむ。地道に除雪を進めるが、手の指先が一向に温まってこない。必死に動かして作業を続けた(この時点で既に凍傷の元をつくっていたらしい)。

テントに戻って朝食を作る。相変わらず MSR の調子が悪い。

テント撤収を済ませて早々に小屋を目指す。足下のワイヤーから先はもう鎖場と梯子場とで迷うような所はない。それでも、この辺りで気が緩むために意外と事故が多いとの記述があったことを思い出し、慎重目に一歩一歩下りていった。自出のコルは案の定猛烈な風と雪つぶて。冬季小屋はどこじやー、と探す。案内の札と、入り口掘り返し用のスコップに気付き冬季小屋発見。ホッとする。

中に入って装備の雪落しと、乾燥に努める。暖かくはなかったけれども、快適の一語。

つくづく昨日辿り着けなかつたことが悔しくてならない。

3/5(晴れ) 穂高山荘(7:00)→北穂小屋(9:30)→南岳小屋(13:45)→中岳(15:05)→大喰岳(15:40)→肩の小屋(16:15)

もう一泊くらいしたい気分だが先を急がねばならない。小屋を片して出発する。

風も弱く、日の間も見える。一日もってくれることを願いながら涸沢岳頂上。下降点を見つけクライムダウンした。鎖等を使えばロープの必要はない。北穂の小屋までは、所々でマーカー探しに足を止める他は何の不安もなく、まさに快調。ちょうど太陽も出てきて、3日の夜を過ごしたテン場も見える。涸沢は雪崩の巣と聞くけれども、なんとも美しかった。

北穂の小屋は通り過ぎ、気を引き締めなおしてキレットを目指す。北穂直下の下りは記述や聞いていたものより全然難しくなかった。雪のつき方がよいのと程々にしまっているのが幸いしたようだ。でも、日中に雪が緩む場合にはあまり歓迎されないかもしれない。危険な場所には違いなさそうだ。それから先もキックステップ、前爪立ち込みなど、基本的なことをおろそかにすれば間違いなく落ちる場所ばかり。かといってロープが欲しくなるほどではない。こういう緊張感は最高だ。印伝いに行きさえすればロープを要する個所はまずなかった。むしろ、いつまでたっても緊張の連続であるから、懸垂を混ぜたほうが気楽かもしれない。今回は A 沢のコル手前の下りで一回懸垂したのみ。鎖が出ていたが、しっかりした残置支点もあり、懸垂することにした。

大キレット手前で一本入れて、南岳への登りへ。上部のルンゼまで難所はないが、やけに疲れる。南岳南壁前のルンゼのトラバースがいやらしい。その上の広いルンゼを上りきって南岳小屋に到着。

まだ時間もあり、穂高山荘での遅れを取り戻したかったので、そのまま槍の肩の小屋を目指すことにした。しかしこのあたりでさらに疲れを感じ始める。キレットの通過は面白さのあまり疲れさえ感じさせないらしい。この先は格別危険な個所もないことだから、一步一歩進むのみ。

何遍かのアップダウンを繰り返してようやく大喰岳へ。肩の小屋も見てあと一息。大喰岳西尾根も確認し、飛驒沢を横目に見ながら肩を目指す。今までの上りで一番時間をかけてようやく小屋に到着した。今まで最も長い道のりに感じられた。

この晩は水分をなるべく多く摂るようにした。事実染み渡るようにお茶は喉を通っていった。

この日の行動で片寄の凍傷が悪化した様子だったので、槍の穂は断念して明日はすぐ下山することに決定した。

3/6(晴れ) 肩の小屋(6:30)→滝谷避難小屋(10:05)→白出小屋(13:30)→新穂高(16:20)

まず、大喰岳まで上り返さずに飛驒沢をトラバースして尾根に取り付いた。しかし、今振り返ると、視界がよかつたとはいえ、やはり素直に大喰岳山頂から巻いて取り付くほうが安全だろう。

大喰岳西尾根は所々に赤旗が立てられており、それらを参考にルートを決めていく。尾根の取付である宝の木付近からラッセルとなり、ワカンなしの二人でかわりばんこにトレースを作っていく。いつまで経っても雪崩の危険のない場所が現れてくれず、うんざりしてくるが仕方がない。ワカンを省いた罰だろう。ようやく針葉樹の麓に辿り着いて一本。これから先も沢のど真中を進まざるをえない場所が続くため、雪崩がかなり怖かったが事無きを得て、滝谷の避難小屋に。この時点で片寄のスパッツが壊れ、プラ靴はその後の道程でびしょ濡れになってしまった。

ひたすら続く川沿いの道のりをラッセルしていく。堰堤に突き当たって白出沢を上り出し、途中の堰堤からトラバースして急な坂をラッセルし、ようやく白出小屋に到着した。ここからは林道であるためうっすらとトレースが残っており、でかい雪球で歩きにくくなるのさえ我慢すれば、さっきまでとは比べ物にならない位の快適さだった。

ついに新穂高に到着して、タバコとジュースで乾杯。うまかった。

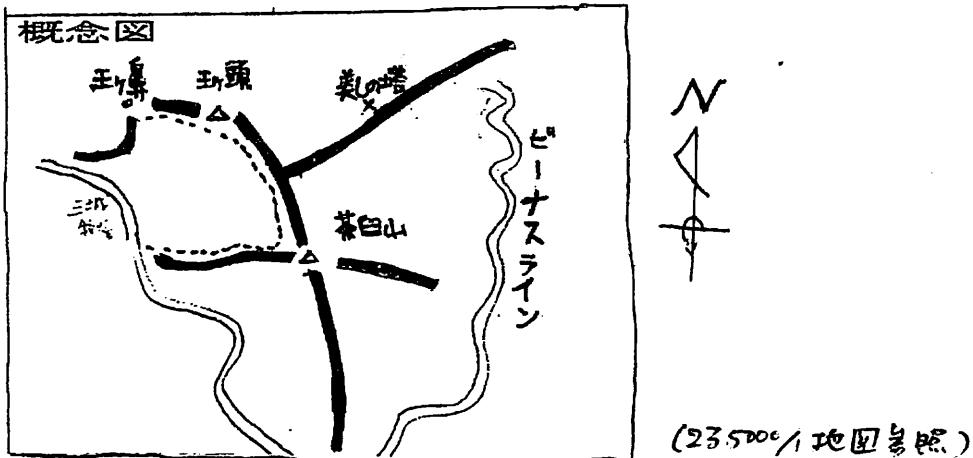
それからジャンボさんに迎えに来てもらい帰松したが、帰り道で既に悪化していく山なみを目にして本当に今日中に下山してきてよかったと思った。あと一日遅れたら危かった・・・、とゾーっと僕らの槍穂は終わった。

反省

とりあえず稜線上はすべて歩いてきたものの、天候の如何に関わらず初日で既に凍傷を負ってしまったことが悔やまれる。昨年の冬合宿でも経験している以上、もっと賢明な行動をとれて然るべきだった。おかげで槍の穂も逃したわけだし、剣の縦走も中止せざるを得なかった。次のシーズンこそはこんなことで山行を台無しにしないようにしたい。そして後輩にも十分な指導ができるように心がけよう。

美ヶ原

メンバー：L三森武志(会1)、高谷英太郎(会2)



3月3日

10:20 三城牧場出発 12:50 1775M地点 13:35 1850M地点

14:30 茶臼山下の小屋T.S.

はじめサクッと行って帰ってこれると思っていたら、胸までのラッセルは出るわ、猛烈な風は吹くわで思ったよりも時間がかかった。ラジオでは春一番だといっていた。樹林の中だってのに、ヤッケのフードをかぶるほどに耳が痛かった。非常に楽な日程だったので、何事もなくT.S.に着き、佐藤さんたちは穂高でつぼっているだろうと思いつつ、その日は就寝。

3月4日

6:00 起床 7:25 出発 7:35 茶臼山 9:00 王ヶ頭

9:40 王ヶ鼻 12:00 茶臼山 13:00 林道

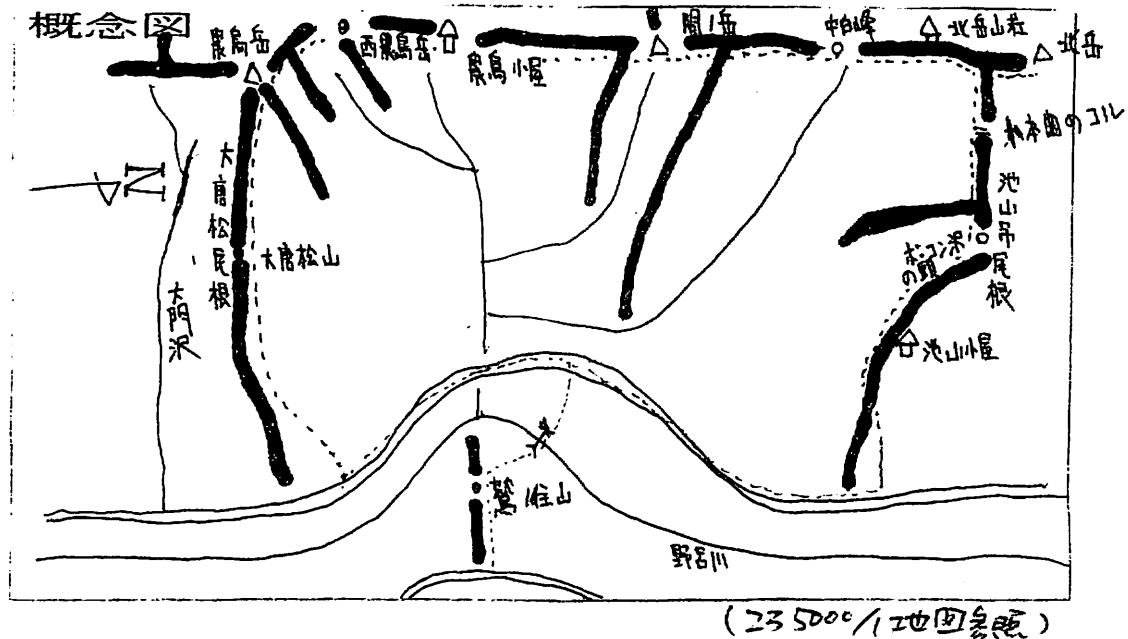
昨日とは打って変わって朝から風は穏やかだった。ラッセルといえるものはほとんどなく、茶臼山から先はずっと凍っていて、まさに「散策」といった感じだった。時間があったので王ヶ鼻まで足を伸ばしたが、残念なことに曇っていてあまり展望はよくなかった。その後、来た道を戻り、尾根を一気に下って下山した。

出発前は、あっさり終わってしまったなら果たして行く意味あるのだろうかなんて思っていたが、意外にも1日目に激しくラッセルできたので、当初の目的どおりのラッセル山行になったと思う。春一番には驚いたが吹いたのが高原に出る日じゃなくてよかった。

白峰三山(大體松尾柏)

日程 3/10~3/12

メンバー 高谷英太郎(2)佐藤祐樹(3)三森武志(1)



3/10 松本＝芦安温泉 9:00～鷲ノ住山～1115m地点尾根取付 14:30～18:00 ~~附近~~ T.S
18:30

夜叉神まで車で入れると思つたが、芦安温泉の車止めが閉まつて、ここから歩くはめに。夜叉神まで2時間弱。鷲ノ住山への登りは、ちょひとだけ怖い。山頂からはいいなり400m down。対岸に見える荒川出合の氷が素晴らしい。つい、尾根の取付である1115m地点の、電線樁視路入口についたのが14:20分ごろ。アプロードに5時間強もかかってしまった。アプロードは奈良田からの方が高低差もなく、かつ除雪もされているので、時間的にも短縮でき良いのかもしれない。尾根は、まず鉄塔をめざして登る、鉄塔から先は、尾根をしらべて迷う心配もない。しかし、T.S.に出る前の最終ピッヂで尾根が岩 menjadiになつたので、そこをまいて左上するがこの雪壁ちくつな部分は少し悪い。その部分を過ぎて少し左、た所の180cm付近をT.S.とする。

3/11 T.S 5:45 ~ 滝沢山 ~ 大唐松山頂前2500m付近 T.S 18:00

わかんをつけて出発する。ラ、セルは所。下胸までのところがあるが概ね順調だ
な。しかし、2000m付近の平らな樹林帯は、少し歩くとズボろことをくりか
えし、ハハカゲン下切れそうにな、た。その地点をこなすと良根も細くなりだし
やがても少なくなる。そして、大唐松山への登りに入っていくわけだが、この登り
が少し悪ハ。急登を木登りを混じえて登、していくわけだが、わかんでは少
い怖ハ。頂上50m下位の所をT.Sとする。

3/12 T.S 6:00 大唐松山 6:20 ~ 1115m 地点 14:30 ~ 豊1住山 ~ 林道 17:30
~ 芦安温泉 21:00

この日は大唐松山から先が、良根が細くなり懸垂もあるとのことで、夫の
アセンわかんで行動することにする。しかし、ここで大事件ホーパー。三森が
アセンかなハと言ふ。良く探せたが、やはりない。アセンかなハと農鳥
への登り、そして稜線に出でからが怖ハので、みんなで話しあって残念ながら
敗退を決めた。せ、やくたから大唐松山には登ろうといふことで、空荷アビスト
ン。山頂からの白峰三山はとても美しく、悔しさがこみあがってきた。後ろ髪をひか
れるような気持ちで往路を下降開始。1日目のT.Sまでは順調に下る。
T.Sから先は、1日前に通った雪壁ちくの所を通るのかいやだ、たので直進して
下りやすハ良根を探すことにする。しかし、すぐに岩が下きて下降が困難にな
たので、ロープをだし、FIXしてもとの良根にもどることにする。幸い3Pでも
との良根に戻ることができた。そして再び1115m取付く。ここからがだるかた、
豊1住山への400mup、累次元空間に迷いこんでしま、夫のかとさえ畏、夫、ハカ
長い夜又神トンネル ひたすらたるさとたえ芦安温泉へ行ったのが21:00。
おま様お疲れ様。

3/16 錫杖岳 北沢大滝～本峰正面ルンゼ

横山勝丘(5) 石際淳(岐阜ケルン山岳会)

錫杖岳のルンゼ登攀。快晴の天気のもと、錫杖沢出合から錫杖岳山頂までなんと4時間半。北沢大滝は50～60°の氷雪壁をノーロープ、本峰正面ルンゼは所々傾斜の急な氷雪壁をスタカットで4ピッチ。直接錫杖岳山頂に飛び出す。快適この上なし。技術云々ではなく、スピードとルンゼの状況判断が必要なルート。アルパイン!ってな感じですこぶる気持ちがよい。詳しい情報を知りたい方は、一緒に登った石際さんのHP「がおろ亭 山とテンカラの部屋」<http://nagoya.cool.ne.jp/ishigawa/>をご覧ください。クロニクルに載っています。

ちなみに、○○○○の裏には、これまたそぞられるルンゼがあります。下部はノーロープ、上部は2ピッチの氷柱。1ピッチ目の氷柱が核心でしょう。かなり悪そうです。あとは○○○左に懸かるめちゃくちゃかっこいい氷柱。強くて暇な人には良いかも。また、錫杖のルートは冬にドライツーリングを駆使して登れるルートが多そうです。おっとっと、大暴露大会になりそうなのでこの辺で…。まだまだ秘密のラインはいっぱいあるよ♪ 知りたい人は自分で調べなさい。では。



BARBAPAPA

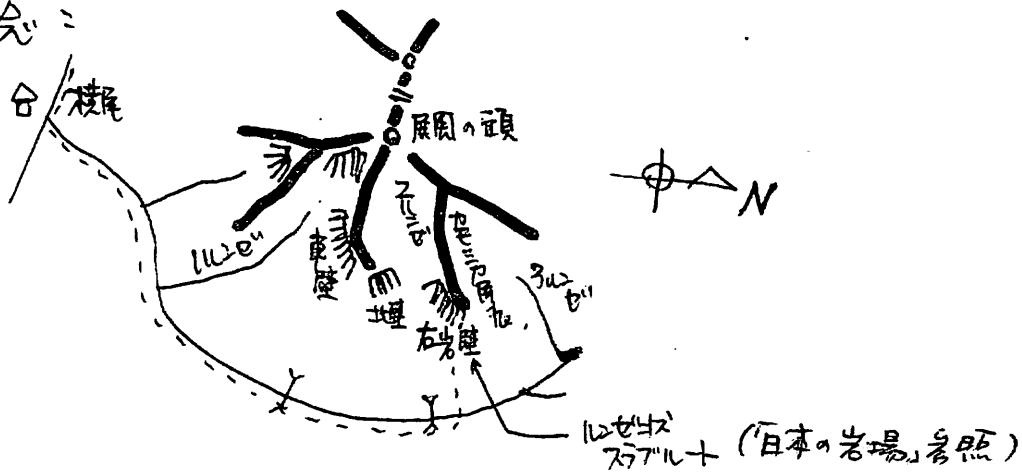
冬壁を登る

各の屏風岩と上高地

山域 = 穂高岳 屏風岩ルート"オースラブ"ルート。

X-11 = 横山勝立(5) 佐藤木橋下(3)

標高 =



期間 = 3/19 ~ 3/21

コースタイム =

- | | |
|------------------|---------------------------------|
| 3/19 10:30 中の湯出発 | ○ この時期の上高地周辺は |
| 14:30 横尾B.C. | 可憐な雪の一言。朝神から |
| 15:00 LT取付(下見) | 梓川本流を歩いて行ける。 |
| 15:30 横尾B.C. | 本流といつも下りの流れとは
<壁くしま、下雪があるかも> |

ある。まるで異國の地に行つたかの錯覚に落ちた。眼前
R7112の雪原にその中にホリシヒー立つて立つて化粧桜の
巨木。ここまで快適なアプローチは他R1311か"が!!。

さて、横尾R7112ルートを洗い確認してみると、これまで
スバラシイの一言。壁の雪壁にしつかうとつまかうてはハハハ
う。興奮いつから横尾にもどる。

3/20 3:00 起床 ○ 14:00 ルート取付 ○
 4:00 横尾出発 ○ 15:00 横尾 ○
 5:00 ルート取付 ○

また暗いうちに出发。リンセイ古寒山だか
 ど、どこか山道を今たれていた。明子さん、
 つまてここの取付到着。最初の200mの
 雪壁はなくなり。1-7mほどで通過。次
 の800mは2P分も支点はあまりとれないので。
 氷は厚く快適!! 横断ルートから800m
 へうせたんと人傾斜がまづくが、これ。
 ニケドの奥の雪交じりの草を飛とうとするし、上
 に抜けた。さてここからか問題である。そ
 んなに外側テラス、かなく、A1ボート
 ラダモなし。サビで上部のスラブはまだ
 く雪モ冰もつてなく、アセノフリーズは不
 可能に見える。ホルトを火死で採りか、どうぞ途中で途切れ
 ている。手をこまねるスキは時間より人と人で往復し、下山
 決定。完壁をさすとの敗退。完登ならぬ完退。(あ、完敗)
 「やめましたよ異人!!」という感じでした。お隣聞いたら言ふよと
 ここで完登でモトロード途中でトリニティスリーパー。その次
 次で「この考え方三重か?」とか。創造性欠けてないと言わざる
 得ない。Oh, no!

3/21 取り扱い - ティーと登子 Jumbo (勝兵) を横尾に残し、一人
 下山。今日は連休の初日。ソロソロ入山してくる。直人さん
 は13時で「子守唄」3首か。このうち屏風に1首、向人へ1首、我3首。



(冬期クライミング参考)

穂高屏風岩右岩壁大ジェードルルート

横山勝丘(5) 本間達弘(雲表俱楽部)

3/21 昨日佐藤と行ったルンスラはあえなく失敗に終わったため、この日は一人横尾の小屋に残り、本を読む。昼前に本間さん着。楽しみにしていた酒が届き、幸せ。

3/22 夜明け前に出発し、雪の締まった横尾の谷を快適に進み、取付まで1時間。2ルンゼはよく凍っているが、思っていたよりショボイ。大ジェードルは、その名の通り、一目瞭然のジェードルをベルグラを繋げながらオールフリーで登るルート。シビれます。技術的には結構グレード高いと思います。合計10ピッチ。すべて悪い。残置支点は、ビレ一点が1つ、中間支点は8本見ただけ。ひたすらランナウト。フリーが出来なきや話にならないし、相当精神的によろしくありません。ちなみに、ベルグラは厚さ1cmくらいのがつるつるのスラブにずっと続いてます。登ったことはないですが、ヨーロッパなどのグレードの高いグロットなどに通ずるものがあると思います。ジョラスのマッキンターア・コルトンルートとかこんなんじゃないかやあ？スキルアップに最適です。ちなみに、ワンディで行けました、やはりフリー主体のルートは早いですね。明るいうちに横尾の小屋に帰りました。

3/23 快適な雪原と化した梓川を歩き、中の湯まで。車の違法駐車で警官にこっぴどく叱られる。しかしあの警官も大変ですかねえ。

屏風に行くなら3月かやあ。アプローチは早いし、楽しい道のりです。屏風というと東壁が有名ですが、右岩壁はフリーで行けるいいルートが目白押し。2・3ルンゼは時間のあまたの半日などに行くにはいいルートだと思います。

S字を登っても思いましたが、冬壁の概念もそろそろ変わってもいいんじゃないでしょうか。今まで冬壁は「完登」すれば良しとされていましたが、もうそれは古いですね。昔、フリー化の波が押し寄せてきた時みたいに、冬壁にもフリーの概念が定着すると思います。もちろん、クライミングシューズを履いてじゃないですよ。基本的にはバイルとアイゼンを履いた状態で。ドライツーリングテクニックを駆使した登攀が5年後には盛んになっていると思います。氷があればそこを登るし、ベルグラをランナウトで突っ込むことであれば、岩にピックを引っかけ登ることもある。これから考えられるのは、ベルグラ主体の壁がフリーでもっと登られたり、今までラダーだったルートが、冬にドライツーリングで登られたりするでしょう。屏風の雲稜なんて行けると思いますが…。簡単なスラブ壁にハンガーボルトが打たれてドライツーリングで登られる事はないでしょうが、大ハングなどでは考えられることです。たとえば唐幕の上部ハングにハンガーボルトが打たれ、最後、あのどでかい氷柱に乗り移る、とか。実際、ヨーロッパでは既に大きな山の壁でグラウンドアップでM7が作られているそうです。これからはそういうスタンスでみんなクライミングをすれば、結構日本の壁も捨てたもんじゃないと思えるような気がするのですが、いかがでしょうか。無限大の可能性があります。来シーズンがまた楽しみです。

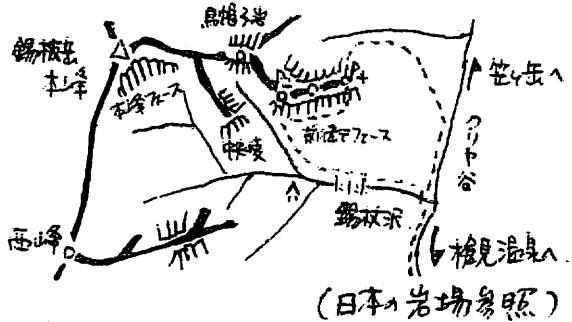
というわけで、今回の屏風は今シーズンの冬壁締めくくりには最高でした。また来年。

錦杖万歳

山城：錦杖岳前衛アースリード

メンバー：L 横山勝一、佐藤祐樹、三森武志

概要：



期間：3月23日

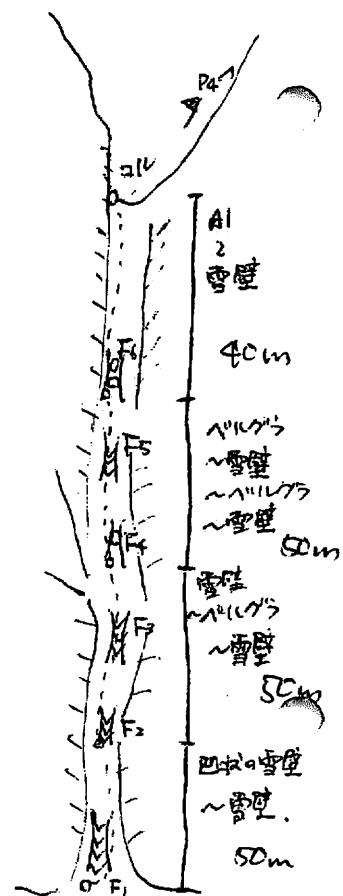
コースタイム：7:00 櫻見温泉出発

9:00 311セ"取付

12:30 P3-P4の2ル (311セ"589点)

14:00 櫻見温泉着。

夏の錦杖岳もさることながら、冬の錦杖岳も一見いいや、一登。価値あり。並岳への登山道(もちろん雪の下駄や...)から見える前衛アースは「111セ」、211セなど見事に米かわかり、雪と岩と氷の世界である。今回11-12 311セ"17簡単丘陵"スルギリ快適で、みもしまる。ただし僕らが行った時は非常にあたたかい日で、小雪米かわ近く落としていた。また4リ雪崩も多かった。しかし、上部は行かず12つれ、それだけあまり、快速の2文字！錦杖最高！



(日本岩場参照)

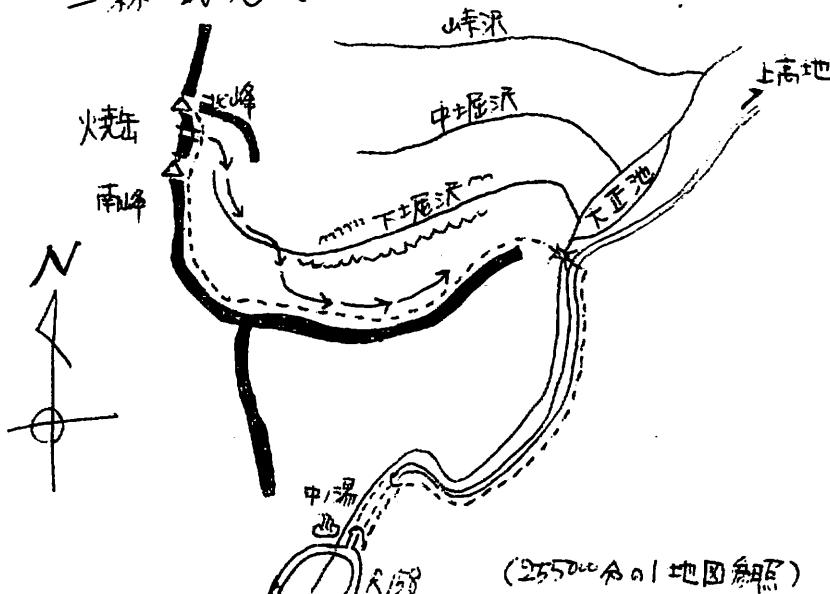
最近「ナムニシ」、「ルルイ」など本が出版されて、冬攀311セ"アーチ"アーチ。アーチへと55の方法があるらしい？

男三匹 焼岳スキー紀行

山域：焼岳下堀沢

Xマーク：山 佐藤 祐樹 (4) 高谷 英太郎 (2)
三森 武志 (2)

概念：



期間：4月29日の午

コースタイム	6:00 中の湯出発	10:30 北・南峰間ノゴレ
	7:00 下堀沢出合	11:30 下堀沢出合
	9:30 北・南峰間ノゴレ	12:25 中の湯着
	9:50 焼岳北峰山顶	

今回、臭い男三匹で皆生涯初の山スキーをやったみよ」という。いや、内一匹の高谷シリセード協会会員は「スキーが何? たんごうだ」と言、2500円くらいで鹿茸(シカツノ)マシン①を手に登っている。佐藤も山スキーという高価マシンを買うことはできず、「中」にレンタル用スキーを買ったが1人4000円がやたらと高い。たぶん唯一「ハルジヨウ」アリス皇子殿のが御立派な山スキーを持っていた。スキーはカッコいい。お金にまつわる話は言わせて、手袋も買っちゃひました。アリス皇子は3人目の山スキーを手に持つて笑っている。アリス皇子は3人目の山スキーを手に持つて笑っている。

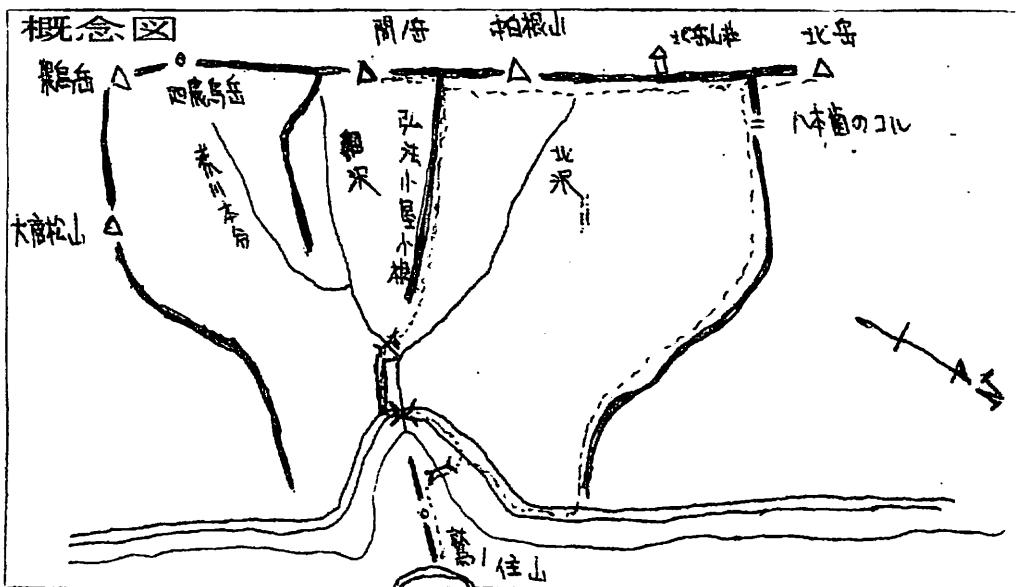
釜トンネルを抜け、焼岳を見上げると、雪が途中で切れ
て、滑走路と見えたところは岩が露出している。「や、ヤバイ...
あと二歩か三歩のか...」と早くもビビった三人組であつたが、これ
は「か」三人組の甚が達である。尾根の取り付きは下に屈沢
一番下の提防の横にある。上に登ると「雪が太多になり歩きやう
くない」と。200m付近まで上りきと木立があり、本当の滑
走路面から見えてきて、川底スキーをあきらめていた脚立に立
轉じ、「アリミナミ」アミナミは早くも興奮させた。「あれや、あれが、
おもしろいだぞ。お川高谷！」(かし、シリセード会員で
ある高谷はあまりテクニシャン以上やらぬ、やはりシリセード
だからこそあれらしい)しかし、会員として「これは、いかん。」と思
ふらしく、それが違うシリセードの将来性と重要性について語
り出す。「シリセードでオーランゼー、ツ種目に『とりあえず』シリ
セードでコブを滑るだけね」と言っている。スキー、ス
キーナ次こそシリセードの時代であるらしい。日本でレッスキー
場でシリセードが集まる日を夢見ていた。

どうこういって川内山口南は山峰間の谷に到着。サク
クと置いて、山頂1.2kmの庫原で腰を下す。快適さ。
山頂でトトロの360°展望を挙げて。「山さええのう~、
これまでモモリ。さて滑る前にコーピーブレイク。神戸の
山スキーは高鳴る胸を無理矢理落ちつかせ、下降席
だ。こうう時々先陣を切るのは特攻隊長高谷である。
得失へマシンで爽快トシ滑る。肆り二人度高谷に
つづく。「や、ホ~イ。化更余斗か弱くみてつれシリ
ヤーダー。高谷はふとくつり、止まつた。スキーは足も止
まつ飛ばす。高谷は走つてつけてきた。

ルートで20m落差かいところ一カタシ。ただこの時期なん
かと雪が少なめで滑れないので、4月初旬からいいと
思ふ。また僕引の途中の尾根から下りてから、下土屈沢を下ると
落石等が多く、条件が悪いと感じられた。

間1岳～北岳(弘法小屋小根)

期間 5/3～5/5 山行メンバー 高谷 荘太郎 三森武志



5/3 夜叉神の森 6:00～鳩ノ住山 7:05～荒川出合 8:00～北沢・本谷出合
9:10
～2530m付近 T.S 15:15

P尾根(大唐松)のリベンジとして、今回この弘法小屋尾根に登ることにした。前回3月と違った、今回は夜叉神の森まで車で入ることができた。天気は良好。ショグジューで歩きだす。前回はアラ靴で林道を歩き、相当大るか、たのだがショグジューで楽だ。ショグジューで北沢・本谷出合までいいた。出合でアラ靴下はミカえ、吊り橋を渡り尾根に取付く。尾根上に雪はまだくなかった。それ下は木立、吊り橋を渡り尾根に取付く。尾根上に雪はまだくなかったので「雪のある所までいくとも暑い。僕と三森で水を1㍑持つのがたので「雪のある所までいかないと俺達干されると」と本気とも冗談ともつかないことの大まいまがからひたすら登った。やがてそんなにぐんぐん快調、快調。そして2300mあたりからやっと雪がでてきてホッとい安心。2530mあたりのタケカシバの疎林を今日のテント場とする。展望が素晴らしい。農鳥や間1、北岳が一望できる。P尾根もみえたのかな稜線に出るまで森林が果して行く続き、ケルソウな尾根だ。雪から水を作りメスナーを目指して飲みまく、たのだが、メスナーのように4㍑飲むのはやはり無理だ。エッセンをして就寝。

5/4 起床 3:30 ~ 出発 5:30 ~ 雪壁基部 8:30 ~ 間1岳 9:15 ~ 北岳山荘 10:50
~ 北岳 12:45 ~ 池山吊尾根 2845m付近 T.S 15:15

この日も天気は快晴。水をたくさん飲んで出発する。少し登、72600mあたりで森林限界にいた。雪も稀ま、7:17快調、快調。展望も申し分なく快適な雪稜歩き。遠くにはこれから登る雪壁がみえた。やけに息に見える。5:30とひびきながら2ピッチで雪壁基部へ。遠くでみると木部などあかた。僕達は2本ある岩稜の右側の雪壁を登った。ふくらはぎが疲れ、そして、北岳への縦走路にいた。ザックを置い、間1岳をピストンする。展望最高。北岳に向かう。ほとんど夏道だ。池山吊尾根分歧でザックをおいて北岳をピストン。頂上では、富士山やハマ、北アルプス、南アルプスの山々が一望で素晴らしい眺めだ。頂上で少しのんびりして出発。池山吊尾根 2845m付近を今日のテント場とする。雪上にマットを敷いて外でエッセンをする。日差しが強く暑いくらいだ。この日も水をたっぷり飲み、エッセンをして就寝。

5/5 3:30 起床 ~ 出発 6:00 ~ 池山吊尾根基部 8:50 ~ 鷲1住山 10:55 ~
夜叉神の森 12:30

この日も天気は快晴。水をたっぷり飲み出発。吊尾根は足、たより雪が少なかった。下部は倒木が多く、かつ急で登りた。とう相当グレードだ。尾根基部の林道でショグニ、一にはきかえた。そして最後の難関鷲1住山への400m upを軽く(?)こなし、林道を歩き夜叉神の森へ。今日の山行は天気にも恵まれ最高の3日間だった。

P.S 尾根を登るのは相当根性がいる。

今年の冬は例年にもまけて寒がる....。

飛翔機が飛んで各地の滝や山々で氷結。そして...

特集「今年行くアイスクライミング」

① 太田切川(野猪) A3R

② " C3R

③ " D3R

④ 八ヶ岳西面 ショーゴ沢 左俣破壊

⑤ " 2箇所の滝

⑥ " トトロの滝

⑦ 尾白川 岩間いせ

⑧ " ベルタ山いせ

⑨ " カンガリ3沢・錦瀧

⑩ 八ヶ岳・柳川南沢スラッシュ

⑪ 春日渓谷 春日いせ

⑫ " アリシエーハレンセイ

⑬ 鞍ヶ岳・三本槍付近

⑭ 荒船山・相沢奥壁氷塊群

⑮ " 太糸の滝

⑯ 湯川

?"





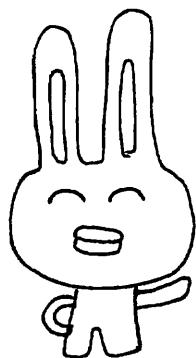
片寄

旅 托



と

抱 負



13t



三本



総括

三森 武志

この一年間、それなりに山行に行ったと思う。

しかしその姿勢はどうだったかというと、イマイチ積極

性に欠けていたようと思う。ただ“流れただけで、ついで

いく”という形しかとれなかつたときもあった。これからは

2年になり、前に立ってグイグイ引っ張っていかねばな

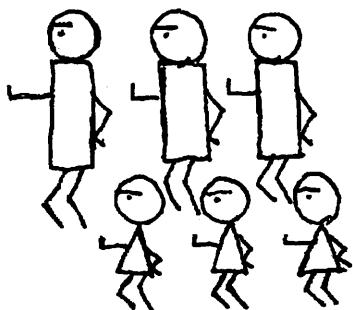
らない。しかも今年は上級生も少なく、2年だからと

いって、甘えを言ってはいけれない。この一年間

で一通りのことは学んだ。あと必要なものは、自分の

努力だけだ。これから的一年、血ヘド吐くほど

努力しようと思う。



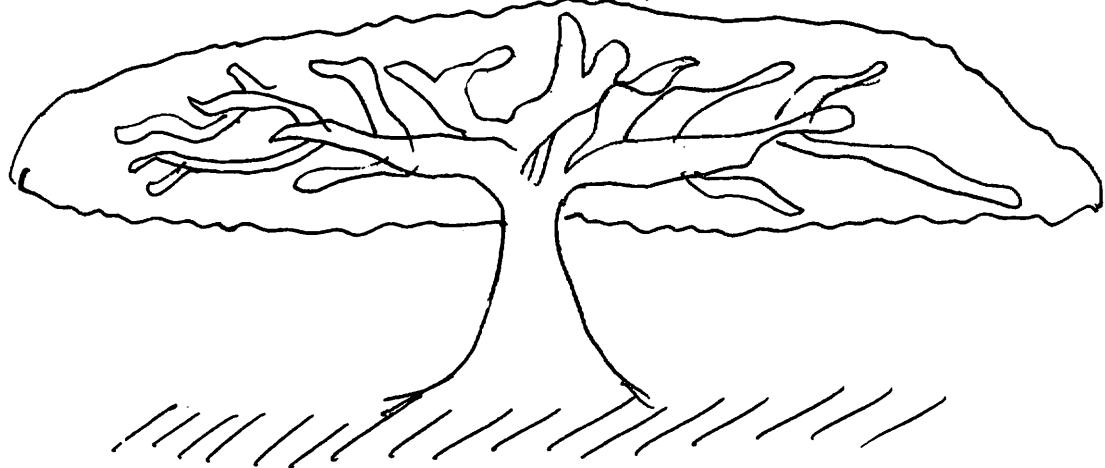
<今年度の反省>

高谷 莉太郎

今年度は、とても不本意な年になってしまった。上級生として、初めての1年間を過ごしたわけであるが、その後目を果たせたかというと、果たせなかたといわざるおえない。技術うんぬんより、山に対する姿勢から、自分には足りない部分があつたと思う。紙の上で書くだけでは、今年度の自分は終わってしまった。これからは自分の実際の行動で示していければ、いかなくとは思う。

<来年度の抱負>

今年度は、合宿以外の個人山行に行く日数が極端に少なかつたと思う。来年度は自分から積極的に計画をたて、より多くの個人山行に行きたいと思う。抱負を挙げればきりがないが、それを実際に行動に移すことか自分の一番の課題だと思う。紙の上で、あーだ、こーだ言つても意味がつかない。自分の実際の行動で示していただきたいと思う。



既に新年度を迎えてから振り返るとやっぱりあつという間であったという一言が浮かんしまう。ひとつひとつの合宿自体は、いつもてんやわんやに迎えて過ぎていくものだったが、それも終わってしまえば結構あっけないものようだ。こんな風に感じるのはやはり春だからだろうか。ついこの間まで伊豆にお気楽なクライミングツアーブー^ルを行っていたせいか、これから新入部員を迎えて怒涛のように忙しくなるのがわかっているからやはりこんなのん気なことしか考えられない。おいおい、そんなんじや事故るぞ、と自分に言い聞かせてみると、ちょうど去年の総括で書いたことが想起されてくる。そうだ、去年は事故だけは絶対だめだ！なんてことを言っていたっけ。とは言え、2002年は確かに何事もなく終えられた。本当によかった。そういえば、合宿が無事に終了するごとに、佐藤さんがホッとしたともらすのを聞きつつ、リーダーだけが持つ特別な緊張があるのだろうと想像したものだった。

合宿を経ることに自分の力は上がったことだろうし、実際に現役だけで果たした冬合宿は、敗退という結果ではあったけれども十分な手ごたえを感じることができた。

春休みには西穂高岳～槍ヶ岳を歩き、凍傷を負ったことで自分の課題も見えた。そのせいで剣北方稜線を棒に振った形になってしまったが、仕方がない。

自分に向いた山登りもつかめてきた感が出てきた。あとはこれを3年次に活かすだけだろう。

2003年度抱負

春の合同岩トレからずっと、現役たった4名でやってきた。その都度5年生、OBに助けてもらいながらの活動だった。合宿ごとに減っていく一年生を見つづけて、今現在残っているのは結局たった4人。月ごとの総会はなんとも寂しくて仕方がない。といつても少ないのでそれなりに気楽なもんだ。もちろん辛い面もあるが。まず今年は辞めない精鋭新人5人をゲットしたい。そしてそいつらと一緒に山を歩きまくりたい！短期長距離型の山行をたくさんやりたい！

いよいよ3年、合宿では先頭に立つ存在だ。あんまり似つかわしくない役柄だとは思うが3年らしくやっていくとしよう。

2002年度懇親会と2003年度抱負 佐藤祐樹

毎年のことながら、2002年度も電車の近く過ぎ去った。しかし、その内容は濃密である程度、満足している。この移り変わりの早い四季の中でも、ふとした瞬間、自分の軌跡をぶり返るときがある。そのときは思うのは、過去の自分もそれなりにやればそれでよかった、まだいいところという一種の飢餓感、貪欲な気持ちを感じる。そして今までの自分を工具として未知なる新しい世界に大きな期待と不覚で感じている。精神的にも肉体的にもさらなる未知なる領域へ踏み込もう。

山岳会会員として今年の自分は思ひ残ること多かった。今化了了登山スタイルと減少する部員といふ点が況のなか大学山岳部に向を送る、どう変化していくのか、様々に大学や言葉行錯誤している。信州にて例外ではない。しかし、苦いことか嫌いが現代、我々は時代に逆行する活動をしていくのだから、部員の減少はむづかしい感はある。(しかし、様々に登山スタイルし、JR登り、クライミング、系統走りにも各自で、自ら困難、限界に近いもののが在存する。信州山岳会のリーダーとして自分は自ら困難が自ら限界の様々アレビニスとの繋いで探求し、人生に伝えていかと思っている。またどういう信州山岳会についてと思っている。

編集後記

。このバック大が量の印刷に、この季節が来たか
と思はず思つました。 三森

。新参者の1年が編集後記を三森さんの命に
より書かせていくる“いてまきか”、合宿の度に
のよう手作業があるのかと思うとゾッとします。
来年もこの紙面上で抱負を述べられるよう頑張り
たいです。 高橋

↑
。何がかけつけ事かと言つてはアラ



編集：佐藤

表紙：三森